

守口市立寺方小学校・南小学校
の統合実施計画

平成26年11月
守口市教育委員会

守口市立寺方小学校・南小学校の統合実施計画

目次

第1 守口市における学校統合の背景	1
第2 寺方小学校と南小学校の統合について	1
第3 統合校の学校づくりについて	2
第4 寺方小学校と南小学校の歴史	3
第5 小学校の現状と統合の目的	
1 小学校の現状	4
2 小学校統合の目的	5
第6 小学校統合の具体的内容	
1 学校の設置場所	6
2 学校の統合と開校時期	8
3 寺方小学校・南小学校統合新設校の特色ある学校づくり	8
4 施設整備スケジュール	8
第7 計画実施にあたり	8
【参考資料】	
・守口市立寺方小学校 配置図	9
・守口市立南小学校 配置図	10
・守口市立第二中学校 配置図	11

第1 守口市における学校統合の背景

守口市立小学校の児童総数は、全国的な少子化の進行と同様に昭和53年の20,166人をピークに平成26年には6,857人にまで減少しています。また、市立中学校の生徒総数も昭和57年の9,235人をピークに平成26年には3,663人にまで減少し、小学校の児童数はピーク時の35%、中学校の生徒数はピーク時の40%程度となっています。

学校の小規模化が教育環境に大きな影響を及ぼすことから、教育委員会は平成13年6月に「守口市新しい学校・園づくり審議会」（以下「審議会」という。）に「子どもたちにとって望ましい教育環境を整備し、学校教育の充実を図ることを目的とした学校の規模適正化の具体的方策について」を諮問し、平成14年2月に「より良い学習環境創造のための新しい学校・園(教育システム)づくりについて(答申)」（以下「第一次答申」という。）を受けました。第一次答申を踏まえ同年12月に「学校規模の適正化等に係る基本方針」を策定し、平成18年4月に旧土居小学校を守口小学校に、旧藤田中学校を梶中学校に統合しました。

その後も一部の地域でさらに学校の小規模化が進んだため、教育委員会は平成22年2月に「小規模校のあり方について」と「小中一貫教育など新たな学校(教育システム)づくりについて」を審議会に諮問し、平成23年2月に「新しい学校・園づくり審議会(答申)」（以下「第二次答申」という。）を受けました。第二次答申を踏まえ、平成24年3月に小・中学校のより良い教育環境づくりを進めるため、小規模化する学校の規模適正化への基本的な考え方を示すとともに、学校施設の老朽化等への対策も含めた学校の適正配置についての考え方をまとめた「守口市学校規模等適正化基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定しました。

基本方針については、平成24年4月から、関係する小中学校区の学校、保護者及び地域の方々に対し、説明会を開催し、理解を求めました。その結果、平成26年度に、旧滝井小学校と旧春日小学校が統合し、平成28年度には、統合小学校と第三中学校の施設一体型の小中一貫校が開校することとなりました。また、平成27年度にも、第二中学校と第四中学校が統合することとなっています。

第2 寺方小学校と南小学校の統合について

教育委員会は、平成24年度に保護者と地域住民の方々を対象とし、基本方針の説明会を実施し、意見交換を行いました。それらを踏まえ、平成26年度においては寺方小学校と南小学校の統合の方針について、説明会を実施しました。

その後、平成26年10月に学校、保護者及び地域の方々で構成された寺方小学校・南小学校統合校連絡会（以下「統合校連絡会」という。）が発足され、統合校の設置場所、統合時期についての意見を集約し、教育委員会に提言していただきました。

第3 統合校の学校づくりについて

学校は、児童生徒の学びの場であると同時に、地域活動や地域防災の拠点でもあります。統合により豊かな教育環境を整備するにあたっては、こうした二つの性格を共に発展させた学校づくりを進めていくことが必要です。

統合した学校では、校舎の建替えや大規模改修により整備された施設の中で、児童は多くの仲間と学校生活を送り、協調性等の社会性を伸ばすことができます。また、友達との切磋琢磨の中で向上心を育て、多様な意見を交流させることによって学びを深めることもできます。

また、統合した学校は、地域に根ざした学校としての性格をより強めていくことが必要です。地域住民が活用しやすいような施設の整備や災害時の避難所としての役割も求められます。

このような点を踏まえ、教育委員会は、統合し、新設される学校の基本コンセプトを次のように定め、学校づくりを進めています。

夢と志を育む学校づくり

子どもの学びをつなぎ一人ひとりの可能性を引き出す施設づくり

ユニバーサルデザインを重視し、一人ひとりの学びを支える施設づくり

健やかな身体を育む学校づくり

安全に配慮した学校づくり

子どもたちが安全で安心な学校生活を送ることができるよう配慮した施設づくり

地域とつながる学校づくり

学校と地域の連携を深め、教育活動を支える地域人材が集うことができる施設づくり

地域活動など、将来にわたり有効活用できる施設づくり

環境への配慮

緑化の推進など、周囲の環境に配慮した施設づくり

自然エネルギーの活用、省エネルギー対策など環境負荷に配慮した施設づくり

地域の防災拠点

地域の防災拠点としての役割を担うことができるよう、災害時の対応に配慮した施設づくり

第4 寺方小学校と南小学校の歴史

【寺方小学校の沿革】

- 昭和26年 三郷小学校から分離し、寺方小学校として開校・校舎棟（1,251 m²）及び給食室（118 m²）を新築
- 昭和27年 校舎棟（1,228 m²→ 昭和48年に100 m²に取り壊し）を増築
- 昭和34年 教室棟（678 m²）・講堂（519 m²）を新築
- 昭和38年 教室棟（165 m²）を増築
- 昭和40年 錦小学校へ分離・教室棟（棟番号㊸-1 918 m²）を新築
- 昭和42年 南小学校へ分離
- 昭和45年 教室棟（棟番号㊸-2 625 m²）を増築
- 昭和47年 寺方小学校分校を三郷小学校に開校
- 昭和48年 教室棟（棟番号㊸ 2,354 m²）を新築
- 昭和50年 給食棟（棟番号㊸ 250 m²）を新築
- 昭和51年 教室棟（棟番号㊸-1 768 m²、棟番号㊸-2 4 m²）を新築
- 昭和52年 プールを新築
- 昭和58年 体育館（棟番号㊸ 748 m²）を新築
- 平成23年 創立60周年

【南小学校の沿革】

- 昭和42年 寺方小学校から分離し、南小学校として開校・管理教室棟（棟番号㊸-1 1,898 m²）及び給食棟（棟番号㊸-1 152 m²→ 昭和63年に倉庫へ区分変更）を新築
- 昭和44年 体育館（棟番号㊸-1 766 m²）を新築及び教室棟（棟番号㊸-㊸ 882 m²）を増築
- 昭和46年 教室棟（棟番号㊸-㊸ 854 m²）を増築
- 昭和49年 プールを新築及び教室棟（棟番号㊸-㊸ 175 m²）を増築
- 昭和50年 教室棟（棟番号㊸-㊸ 348 m² → 平成9年に63 m²を備蓄倉庫へ区分変更）を増築
- 昭和54年 給食棟（棟番号㊸-2 32 m² → 昭和63年に倉庫へ区分変更）を増築
- 昭和58年 教室棟（棟番号㊸-2 612 m² → 平成63年に153 m²を給食室へ区分変更）みなみ幼稚園園舎より区分変更
- 平成元年 給食棟（棟番号㊸-3 100 m²）を増築
- 平成18年 創立40周年

※棟番号を記載しているものは既存の建物で、記載していないものは解体された建物である

第5 小学校の現状と統合の目的

1 小学校の現状

(1) 児童数と学級数について

ア 小学校の児童数・学級数の現状

平成 26 年 5 月 1 日現在で寺方小学校の児童数は 295 名(内、支援学級児童 12 名)、学級数は 12 学級と支援学級 3 学級を合わせた 15 学級です。また、南小学校の児童数は 192 名(内、支援学級児童 4 名)、学級数は 8 学級と支援学級 2 学級を合わせた 10 学級です。

・現状の児童数と学級数

学年	寺方小学校		南小学校	
	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年生	38 (1)	2	24 (1)	1
2 年生	55 (3)	2	36	2
3 年生	44 (3)	2	23	1
4 年生	53 (3)	2	32 (1)	1
5 年生	51 (1)	2	43	2
6 年生	54 (1)	2	34 (2)	1
合計	295(12)	12	192 (4)	8
支援学級	12	3	4	2

※児童数欄 () 内は支援学級児童数の再掲を表す

イ 小学校の児童数・学級数の今後の推移

小学校の児童数・学級数の現状学級数は、推計によると今後は減少していき、平成 32 年度の寺方小学校の学級数は 10 学級と支援学級を合わせた学級数、南小学校の学級数も 6 学級と支援学級を合わせた学級数となります。

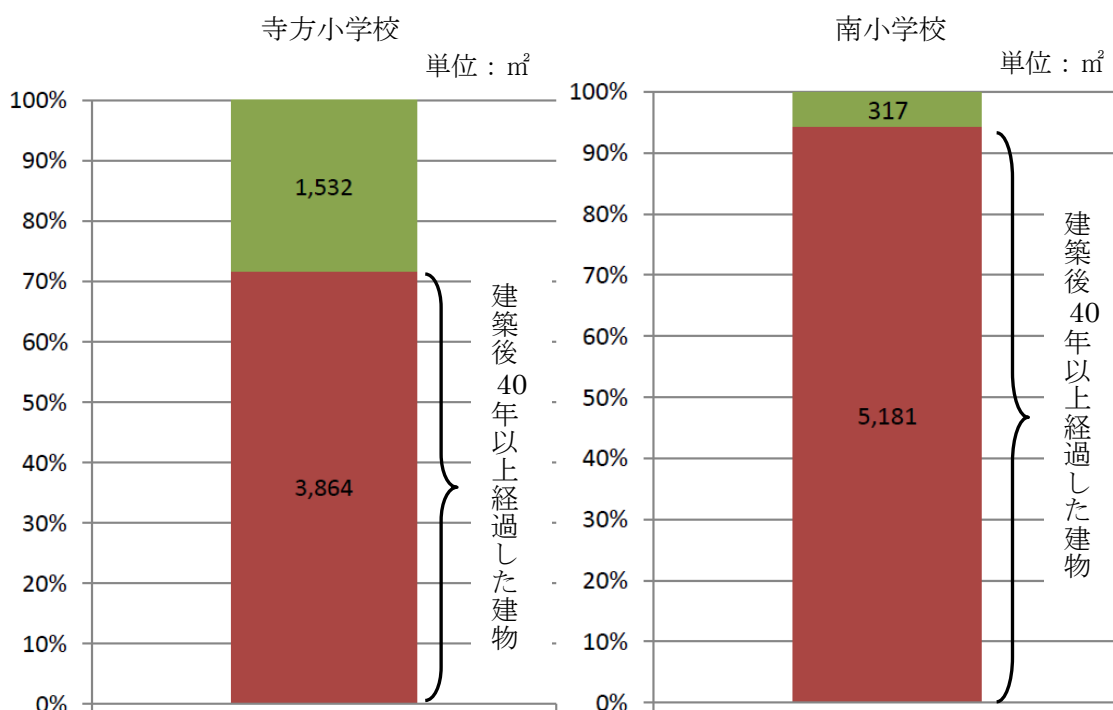
・今後の児童数の予測推移(平成 26 年 5 月 1 日現在)

	平成 26 年度	平成 30 年度	平成 32 年度
寺方小学校	295(12 学級+3 学級)	289(10 学級+支援学級)	301(10 学級+支援学級)
南小学校	192(8 学級+2 学級)	154(6 学級+支援学級)	142(6 学級+支援学級)

※学級数については、1・2 年生は 1 学級あたり 35 人、3～6 年生は 1 学級あたり 40 人を基準に、各学年の児童数から算出した数字である。

(2) 小学校の施設について

両校のすべての施設は築30年以上で、老朽化が進んでおり、寺方小学校は、建物面積の約72%が建築後40年以上経過し、南小学校も建物面積の約94%が建築後40年以上経過しています。



・小学校の施設建築年数 平成26年度時点

	建築後の経過年数
寺方小学校	建物面積の約72%が建築後40年以上経過している。
南小学校	建物面積の約94%が建築後40年以上経過している。

2 小学校統合の目的

現在、南小学校は小規模校であり、寺方小学校も今後は、学級数が減少傾向にあります。教育委員会は、小規模校のデメリットである人間関係の固定化等の問題を解消し、多くの友達との交流の中で、多様なものの見方にふれ切磋琢磨できる教育環境を確保するとともに、組織的で機能的な学校運営を確保するために、学校規模の適正化を図ります。

(1) 適正規模の基準

守口市の適正規模は、第一次答申をもとに平成14年12月に策定した「学校規模の適正化等に係る基本方針」の基準に、第二次答申で示されたクラス替えできる規模がより望ましいと考えます。

・守口市学校規模適正化基準

	小規模校	適正規模を 下回る 準適正規模校	適正規模校	適正規模を 上回る 準適正規模校
小学校	8 学級以下	9～11 学級	12～18 学級	19～24 学級
中学校				19～21 学級

(2) 学校規模の適正化の方法

学校規模の適正化の方法は、基本方針を踏まえ、地域全体で児童生徒を支える視点から、小学校については、地域の歴史・文化等を考慮した同一中学校区内の小学校同士を統合するものとし、寺方小学校と南小学校を統合します。

・統合後の児童数の予測推移(平成 26 年 5 月 1 日現在)

	平成 30 年度	平成 32 年度
寺方小学校・南小学校 の統合校	443(15 学級+支援学級)	443(16 学級+支援学級)

※学級数については、1・2年生は1学級あたり35人、3～6年生は1学級あたり40人を基準に、各学年の児童数から算出した数字である。

第6 小学校統合の具体的内容

1 学校の設置場所

(1) 検討について

学校の設置場所については、通学距離、学校配置及び用地面積の3点を指標とし、寺方小学校、南小学校、第二中学校用地を比較し、検討します。

ア 通学距離

寺方小学校を学校設置場所とすると、最も遠い所からの通学距離は、1,400mとなります。

南小学校を学校設置場所とすると、最も遠い所からの通学距離は、1,300mとなります。

第二中学校用地を学校設置場所とすると、最も遠い所からの通学距離は、850mとなり、通学距離は最長でも1km以内で、3用地を比較すると最も児童の負担が少ないといえます。

イ 学校配置

学校配置としては、両小学校の校区の中央に第二中学校用地が位置しています。

ウ 用地面積

用地面積を比較した場合、南小学校が最も広く11,598㎡あり、第二中学校用地が2番目に広く10,728㎡、3番目に寺方小学校が8,997㎡の広さとなっています。

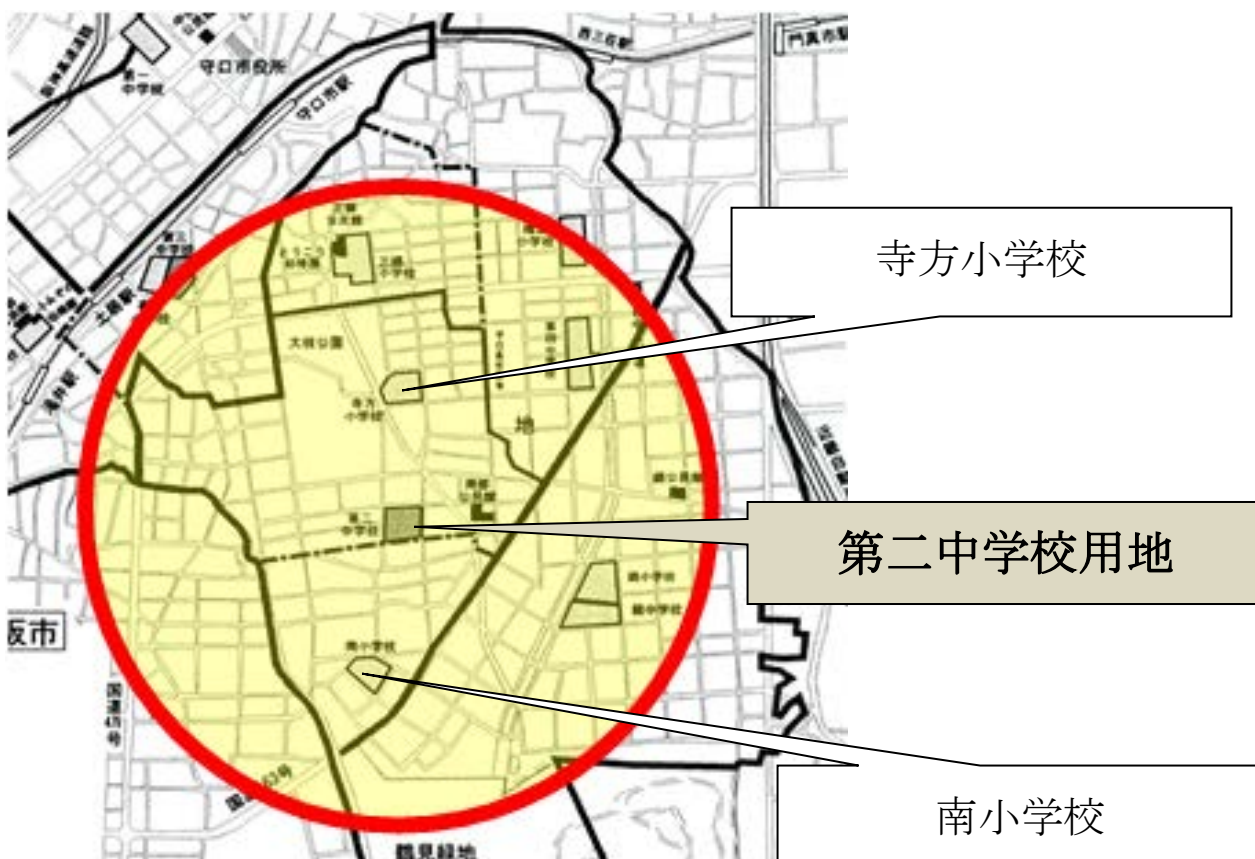
(2) 検討結果

教育委員会は、統合校連絡会からの提言内容を踏まえ、検討した結果、児童の負担を第一に考え、統合校区の中央に位置する第二中学校用地を統合校の設置場所とします。

・各候補地からの通学距離比較表

	寺方小を統合場所	南小を統合場所	第二中を統合場所
東光町 3 丁目まで	400m	1,300m	850m
南寺方南通 3 丁目まで	1,400m	450m	800m
馬場町 3 丁目まで	1,100m	1,200m	850m

・学校配置



・各候補地の面積等の比較表

学校名	寺方小学校	南小学校	第二中学校用地
全体用地面積 (㎡)	8,997	11,598	12,618
運動場 (㎡)	4,387	5,271	7,066
建物敷地 (㎡)	4,610	4,827	5,552
その他 (㎡)	0	1,500	0
保育所等用地 (㎡)	0	0	▲1,890
学校利用可能面積 (㎡)	8,997	11,598	10,728

2 学校の統合と開校時期

平成30年4月に、第二中学校用地において、寺方小学校と南小学校を統合し、新設校として開校するものとします。

3 寺方小学校・南小学校統合新設校の特色ある学校づくり

教育委員会は、学校づくりにあたり、守口市の新しい学校づくりに共通する基本コンセプトと統合校連絡会からの新設校の学校コンセプトに関する意見集約を踏まえ、寺方小学校・南小学校の統合校を特色ある学校になるよう、学校づくりを進めていきます。

また、第二中学校用地において、平成27年度に市立寺方保育所と南保育所を統合した保育所が設置予定であることから、小学校と保育所が隣接する良さを活かした学校づくりを目指します。

4 施設整備スケジュール

施設整備に関しては、学校、保護者及び地域の方々の意見を踏まえながら、設計を進めていき、工事完了後に、新設校開校に向けた十分な準備期間を確保できるよう取り組んでいきます。

・新設校開校までの設計・建設スケジュール予定

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	基本設計	基本設計 実施設計	既存校舎解体 建設	建設	開校

第7 計画実施にあたり

教育委員会は、計画の実施にあたり諸課題について検討を行い、より良い学習環境の整備を早期に実現することを目指し、円滑に統合し、開校できるよう努めます。併せて、学校、保護者及び地域の方々の意見を踏まえながら、魅力的な学校づくりを進めるとともに、統合に向けた進捗状況等を情報発信しながら、統合を進めていきます。

【参考資料】 寺方小学校 配置図

